那覇港だより

な　は　みなと

２０１４．４
第９号

☆ ☆

目　次

☆ ☆

１　那覇クルーズターミナル供用開始　・・・１

２　2014 年那覇港へのクルーズ船寄港予定 88 回！　・・・３

３　那覇港利用促進協議会　・・・４

４　生まれ変わった泊大橋電光表示板　・・・５

５　職場紹介コーナー　〈５〉（計画課）　・・・６

６　那覇港とぴっくす（那覇港の動き、那覇港管理組合議会の動き）　・・・７

７　那覇港写真館　・・・８

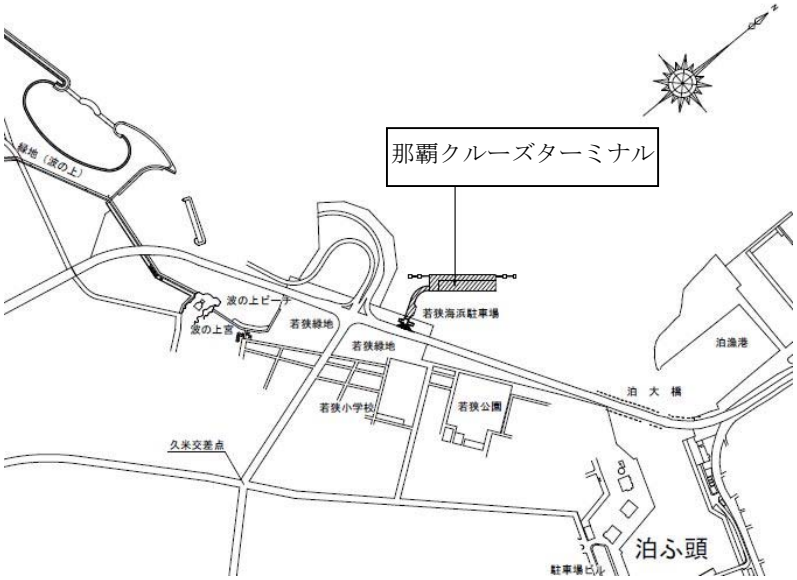
クルーズバースに着岸するコスタ・アトランティカ

平成26年4月1日
那覇クルーズターミナル　供用開始

（企画建設部建設課）

★アジアを中心に人気上昇中のクルーズ船

那覇港のクルーズ実績は、日本国内でも上位に位置しており、特に外国船の寄港回数は、全国１になった事もあります。2012 年は過去最高の 67 回の寄港があり、約７万人の方が那覇港を訪れました。アジアを中心に人気上昇中のクルーズ旅行ですが、台湾、上海からの寄港地として人気が高く、本年は過去最高の 88 回を予定しております。



★待望のターミナル完成

ターミナルが無い岸壁では、クルーズ船寄港時の入国審査において、審査官が船内に乗り込み船内のホール等で機材をセッティングして、審査を開始することから、時間を要する状況となっていました。ターミナルが完成したこれからは、ターミナル内で事前にセッティングされた広いスペースを使って審査手続きを行えるため、入港後、速やかな下船ができ、観光やショッピングの時間が増えるという満足度アップにつながることが期待できます。

★環境等に配慮した設計

クルーズ船のデッキから見下ろすことができるターミナルの屋根部分には、特徴的なデザインの鉄骨

パーゴラがあり、その上には太陽光パネルが設置されています。また、風力発電や LED 照明機器などを導入し、環境負荷の低減に努めております。

さらに館内はバリアフリーの設計となっており、エレベーター２基、エスカレーター１基、各階にオストメイト対応の多目的トイレが設けられております。たくさんの方々に安心して利用して頂けるよう配慮致しました。

★みなさまの利用もお待ちしております

那覇クルーズターミナルは、沖縄の海の玄関口として重要な施設であり、沖縄観光の飛躍に寄与する事が期待されております。また、クルーズ船の就航が無い日には、本施設はホールとしての貸出しも行います。天井高さ 4m、長さ 100m、幅 20m の２階は広々とした空間になっており海を一望することができます。海を存分に楽しめるターミナルで各種イベントにご活用お願い申し上げます。

出入国審査場

エントランスホール

海上から見た那覇クルーズターミナル

【施設概要】
施設名称：那覇クルーズターミナル
延べ面積：4468.273 ㎡
構造：鉄骨造　2 階建て
施設用途：待合所、入国等審査場兼多目的ホールほか
入国審査ブース：16 台（可動式）
税関検査台：4 台（可動式）
CIQ ホール面積：約 1,200 ㎡

2014年那覇港への クルーズ船寄港予定 88回！

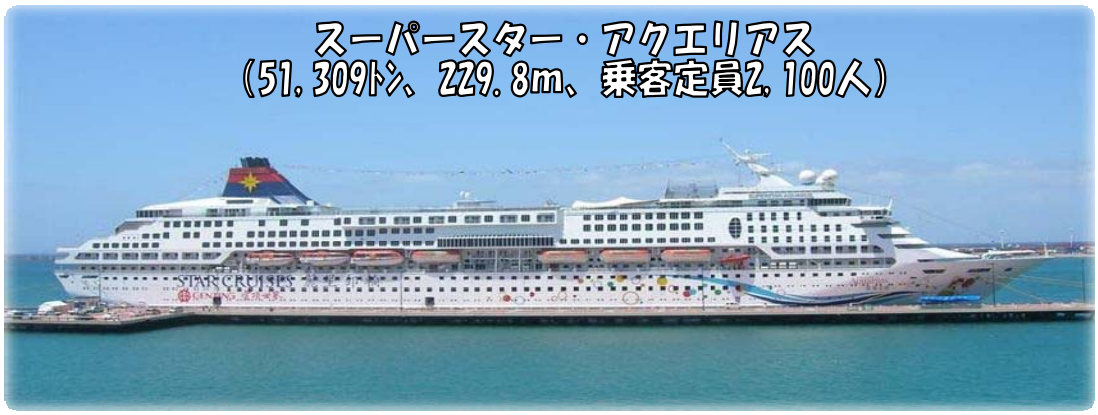
過去最高！

（企画建設部　企画室）

2013年に那覇港へ寄港したクルーズ船は56回でしたが、2014年は1.5倍となる88回の寄港を予定しています。88回の内訳は日本船が12回、外国船が76回となっています。寄港予定の主なクルーズ船をご紹介しますと、4月から10月まで毎週火曜日に寄港する定期船「スーパースター・アクエリアス号」（約5万1千トン・スタークルーズ社）が29回、アジア最大クラスとなる「ボイジャー・オブ・ザ・シーズ号」「マリナー・オブ・ザ・シーズ号」（約13万8千トン・ロイヤルカリビアン社）が2隻あわせて12回、那覇港発着クルーズも実施している日本船の「にっぽん丸」（約2万2千トン・商船三井客船）や「ぱしふぃっくびいなす」（2万トン・日本クルーズ客船）があわせて9回、その他「サン・プリンセス号」（7万7千トン・プリンセスクルーズ社）など6隻が那覇港に初寄港の予定です。

那覇港へは小型船から大型船、カジュアルからラグジュアリークラスまで多種多様なクルーズ船が寄港予定ですが、4月より「那覇クルーズターミナル」がオープンとなり、3階の屋上送迎デッキからは 全ての客船を間近で見ることができます。また、クルーズ船の出港時には歓送アトラクションをバース上で実施しておりますので、あわせてご覧頂くことができ、出港の汽笛とともに乗客の皆様へ手を振りお見送りすることができます。

今年も多くの船が那覇港へやってきます。寄港時には、是非、「那覇クルーズターミナル」へお越し下さい、心よりお待ちしております。



第１１回那覇港利用促進協議会

（企画建設部企画室）

協議会の状況

那覇港の関係者が一体となって使いやすい那覇港づくりに取り組むことを目的とする那覇港利用促進協議会（会長：山城博美（琉球海運社長））が平成 26 年１月 22 日（水）に開催されました。
同協議会は、那覇港関係の行政機関や民間の港湾、貿易、運送などの利用者４４団体で組織され、専門的な事項を検討するため、「航行安全」「航路誘致促進」「国際コンテナターミナル高度化利用検討」「港湾施設利用促進」「企業誘致促進」「国際交流リゾート推進」の部会を設けています。

同協議会は、那覇港の利便性向上などの課題を検討するため、平成１４年に設置された後、毎年、専門部会の報告、臨港道路の整備、那覇港管理組合事業計画の報告等協議を行い、今年で第１１回を迎えました。

山城博美会長

今回の協議会では、琉球海運と南西海運から「台湾への貨物航路について」、「外国航路についての報告」の議事の報告があり、貨物増大のきっかけになるものと期待されております。また、那覇港湾・空港整備事務所より「港湾整備事業（直轄）の進捗状況について」、那覇港管理組合より「港湾計画改訂について」「那覇港総合物流センターについて」「航行安全部会における検討結果の報告について」の取り組みについて報告がありました。

議事報告のあとの意見交換では、長期構想及び港湾計画改訂に向けての課題と対策について活発な意見交換が行われました。

那覇港管理組合では、設立後１０年を経て港湾を取りまく社会経済情勢が変化しており、今後も必要な施設整備・更新、長寿命化対策に加え、ソフト施策の充実に向けて協力して取り組んでいきたいと考えております。

生まれ変わった泊大橋電光表示板

（総務部業務課）

昭和61年（1986年）３月に設置した泊大橋電光表示板が28年の歳月を経て新たに生まれ変わりました。
「地域の元気臨時交付金事業」を活用した更新工事に着手し、平成26年（2014年）２月28日に竣工しました。

（曙側）

新設された電光表示板の主な特徴としては、表示素子を白熱電球からLEDに変更、支柱の耐候性向上のためフッ素樹脂塗装を施しました。
また、LEDを使った表示板のメリットとして下記の内容が上げられます。

①表示板の電気容量の低減
　表示板の消費電力が低くなるため、電気料金の削減が可能。

②交互表示、点滅表示、動画表示が可能
　異なる情報を交互で表示、より注意を促すための点滅表示、アニメーションによる動画も可能。

③シンボル表示
　文字情報だけでなくシンボル表示も可能。

④３色表示
　赤・緑・橙の３色での表示が可能。

⑤維持管理の低減
　白熱電球のように表示素子のメンテナンスが必要ない。

（シンボル）＋（文字情報）

（若狭側）

結びに、当表示板は任意で作成した文字・図形情報の表示が可能となったことから、道路利用者の更なるサービス向上を目指し、きめ細やかな情報の提供に努めたいと考えています。

※風向風速計と連動しており、平均風速10ｍ以上の風が吹くと自動的に走行注意の規制表示に切り替わります。

職場紹介コーナー＜５＞　（企画建設部計画課）

計画課は、企画建設部に所属し課長以下８名の職員（沖縄県４名・那覇市２名・浦添市１名・非常勤１名）で日々業務を行っております。

主な所掌事務は、「港湾計画に必要な調査に関すること」「港湾計画策定に関すること」「港湾区域、臨港地区、港湾隣接地域、海岸保全区域の指定及び変更に関すること」のほか、「臨港地区内の分区の指定及び変更に関すること」「既存ふ頭の機能再編計画に関すること」「港湾計画の環境影響評価に関すること」「港湾及び海岸事業の整備計画に関すること」「国庫補助事業の予算要求総括及び新規要求に関すること」「公共水面埋立免許権者の事務に関すること」「埋立竣工に伴う区域編入、用途地域の指定及び変更に関すること」などや企画建設部内の庶務業務も行っています。

現在取り組んでいる業務の中でも、今後２０年～３０年後における那覇港へ期待される役割や港湾の開発、利用及び保全の基本的方向について方針を定める「那覇港長期構想」の策定に向け、平成 24 年度から取組を始めています。長期構想の策定にあたり、学識経験者、港湾・地元関係者、経済・観光関係者等で構成する「那覇港長期構想検討委員会」を設置し、各委員の皆様方から多角的な視点からの意見を頂き、取り纏めを行っていきます。去る平成２６年３月２５日に第２回委員会を開催しました（次ページ トピックス参照）。

平成 26 年度中に長期構想を取りまとめ、その後、平成 27 年度を目標に現港湾計画（平成 15 年２月改訂）の改訂作業に取り組んでいく予定です。

また、平成 25 年度は、那覇空港滑走路増設事業に伴う公有水面埋立承認の申請が事業者である内閣府沖縄総合事務局から沖縄県、那覇港管理組合へ申請がなされ、厳正な審査を重ね、平成 26 年１月９日に承認書を交付しました。これにより、第２滑走路増設に向けた事業が平成 31 年度末の供用開始に向け本格的に始動することとなりました。

このように、計画課の業務は、直接的な港湾整備に関連する計画策定業務から、那覇港港湾区域内で行われる港湾管理者以外の事業に係る埋立申請の審査業務など多岐にわたっています。

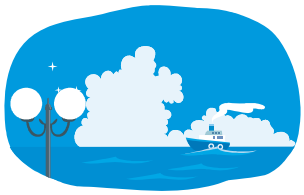
今後とも、「沖縄 21 世紀ビジョン基本計画」（平成 24 年 5 月　沖縄県）における那覇港の役割

●自立型経済の構築に向けた基盤の整備

●世界水準の観光リゾート地の形成

●アジアと日本の架け橋となる国際物流拠点の形成

●世界との交流ネットワークの形成



の実現、併せて「県民に親しんでもらえる港づくり」を目指し、皆様方のご意見・ご協力を頂きながら、計画課として、また管理組合として取り組むべき課題を見据え、日々の業務に励んで参ります。

那覇港とぴっくす

1月8日(水)

新年祝賀名刺交換会～那覇港振興協議会～

- 去る1月8日(水)に那覇港振興協議会による「新年祝賀名刺交換会」がロワジールホテル那覇において開催されました。那覇港関係者120名余りが参加し、新たな年を祝いました。

1月13日(月)-2月9日(日)

那覇みなとまちま～い

•「万国津梁のロマンあふれる交流のみなとまちづくり」の一環として、住民の方々に、波の上うみそら公園およびその周辺の歴史スポット巡りを楽しんでもらう那覇みなとまちま～いを1月13日と2月9日に行いました。あいにくの雨模様の中、100名以上の方々にご参加いただきました。

3月3日(月)-4日(火)

那覇港防災マップワークショップ

現在作成中の防災マップをより有効的なものにするとともに、港湾利用者の意識啓発を目的に、3月3日・4日にワークショップを開催しました。両日とも40名以上の方にご参加いただき、活発な意見交換が行われました。

3月25日(火)

パシフィックホテルにて、那覇港長期構想検討委員会を開催しました。

当日は委員の皆様から20～30年後の那覇港に期待される役割や開発の方向性について、貴重なご意見を頂きました。

那覇港管理組合
今後の主な予定

〇那覇クルーズターミナル供用開始（4月1日）
〇波の上ビーチ海開き（4月6日）
〇ディナーとダンスの夕べ（4月17日）
〇5月臨時議会（5月上旬）

～那覇港管理組合議会のうごき～

２月定例会の開催（2/4～2/6）

下記の議案が可決・認定されました。

〇議案第1号：那覇港管理組合職員定数条例の一部を改正する条例
〇議案第2号：那覇港管理組合特別職の職員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例
〇議案第3号：那覇港管理組合臨時的任用職員の給与等に関する条例
〇議案第4号：那覇港管理組合港湾施設管理条例の一部を改正する条例
〇議案第5号：那覇港管理組合行政財産使用料条例の一部を改正する条例
〇議案第6号：那覇港の港湾区域及び港湾隣接地域内における工事等の　規制に関する条例の一部を改正する条例
〇議案第7号：波の上ビーチ管理条例の一部を改正する条例
〇議案第8号：工事請負契約について
〇議案第9号：訴えの提起について
〇議案第10号：平成25年度那覇港管理組合一般会計補正予算（第4号）
〇議案第11号：平成25年度那覇港管理組合特別会計補正予算（第2号）
〇議案第12号：平成26年度那覇港管理組合一般会計予算
〇議案第13号：平成26年度那覇港管理組合特別会計予算

那覇港写真館

那覇港に虹の架け橋（浦添緑地）

にっぽん丸とクルーズターミナル（工事中）

波の上ビーチ海開き

沖縄は、うりずんの季節を迎え、しだいに暖かくなってきました。3 月末から県内のビーチで海開きが行われ始めましたが、波の上ビーチでも、指定管理者である「ＮＡＨＡえんがん共同企業体」主催による「2014 年波の上ビーチ海開き」が 4 月 6 日（日）に行われます。今回の海開きは、波の上若狭側のビーチに加えて、辻側のビーチも同時に海開きとなります。午前中は、安全祈願祭後、海開きセレモニーを行い、午後には、フラダンス、降雪ショー、豪華アーティストによるライブ等が行われる予定です。皆様お気軽にご参加ください。

＊＊＊＊那覇港だよりに関するお問い合わせやご意見、情報の送り先＊＊＊＊

那覇港管理組合総務部総務課（担当：福原）

〒900-0035　那覇市通堂町２番１号

TEL:098-868-2578　FAX:098-868-2629

e-mail: kumiai@nahaport.jp

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊